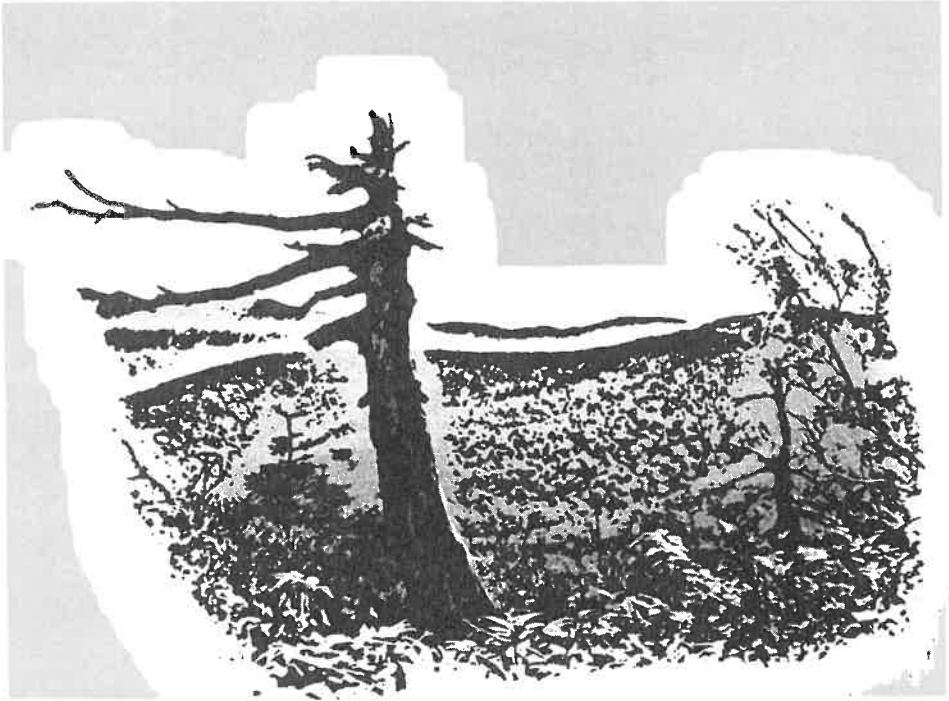


発行 令和二年十二月二十五日

現代
俳句

いわて



岩手県現代俳句協会 No.78

今年をふり返って

岩手県現代俳句協会会長 名久井 清流

本来ならオリンピックに湧いていたはずの本年でしたが世界中に蔓延した新型コロナウイルスの為ありとあらゆるものが大きな影響を受けました。こと俳句においても仲間同志の小句会から青森開催の東北大大会、三重においての全国大会と軒並中止を余儀なくされました。

そのような厳しい状況の下、事務局の尽力と会員の皆様のご協力で夏季句会（七月）、秋季句会（九月）の二回行うことが出来ました。また初めての試みとして十一月に通信句会に挑戦しましたが如何でしたでしょうか。

さて、来年度、令和三年度の現代俳句東北大会は本県の担当になります。日程は次の通りです。

期日 令和三年九月二十五日（土）

場所 エスポワールいわて（盛岡）

詳細はこれから検討することとなりますが決まり次第お知らせ致します。

この状況がいつ迄続くか分かりませんが精一杯頑張つて活動して参ります。会員の皆様にはいろいろお力を貸していただくこととなります。ご協力宜しくお願い致します。

令和二年度幹事会記

五日市 明子

三月二十五日に開催を予定していた岩手県現代俳句協会令和二年度総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に中止となった。よって、それに先立ち三月五日に開催された幹事会において承認された議決内容、その報告をもって総会記に代えたい。なお、資料は総会中止を決定後、各会員宛に郵送済である。

(1) 令和元年度事業報告

春季俳句会 五月二十四日 十五名出席
夏季俳句会 七月二十日 十四名出席
秋季俳句会 十一月二日 十三名出席
俳句入門講座（岩手県立図書館主催）へ講師三名派遣
現代俳句協会青年部勉強会in北上への参加

「現俳いわて」七十七号の発行（十二月）

(2) 令和元年度一般会計及び特別会計決算報告

経費削減により特別会計に十万円繰入れ計上できた

(3) 同、会計監査報告 適切な処理の報告

(4) 令和二年度事業計画（案）

春・夏・秋季の各句会

俳句入門講座（県立図書館主催）全四回へ講師派遣

「現俳いわて」七十八号の発行

(5) 令和二年度一般会計予算（案） 特別会計予算（案）

来年の東北大会開催を念頭に経費を削減し、特別会計への繰入れを確実に行う。

(6) 新会員紹介

大石 文雄（奥州）
金澤 洋子（宮古） 以上二名

右記の各議案は幹事会にて審議の上、承認された。

令和二年度

夏季俳句会作品抄

令和二年七月二十九日(水)

於・盛岡市勤労福祉会館 参加者十四名

小菅 白藤 特選

峰雲や名の決まりたるお腹の子

四戸 美佐子

名久井清流 特選

ふるさとのすつぱり入る夏帽子

小菅 白藤

さいとう白沙 特選

ザクザクと雪溪を喰ひ空の青

吉見 弘子

新山のぼる 特選

ふるさとのすつぱり入る夏帽子

小菅 白藤

互選高点句

ふるさとのすつぱり入る夏帽子

小菅 白藤

峰雲や名の決まりたるお腹の子

四戸 美佐子

コーヒーはブラック太宰入水の日

さいとう 白沙

参加者一句抄

Uターンの子の草笛はまだ鳴らず

安部 克詠

風鈴や隣家解体はじまりぬ

五日市 明子

風薫る絵皿の馬の野駈けかな

小原 きよ

濃紫陽花彩に迷ひのなかりけり

北田 祥子

ふるさとのすつぱり入る夏帽子

小菅 白藤

解き放つコロナ籠りや夏句会

さいとう 白沙

働けるだけで幸せ草むしり

澤藤 はなの

峰雲や名の決まりたるお腹の子

四戸 美佐子

路地入ればががつがつと夏蛙

中野 風子

ポケットをはみ出してゐる蛇の衣

名久井 清流

麦秋や宙にゴッホの眼が光る

新山 のぼる

まつすぐに落ちゆく恋や青りんご

牧原 美喜子

愛いういと対き合ふ鴉五月晴

三浦 百合子

老鶯と遊ぶ七月の森さやか

吉見 弘子

令和二年度

秋季俳句会作品抄

令和二年九月二十九日(火)

於・盛岡市勤労福祉会館 参加者十五名

参加者一句抄

小菅 白藤 特選

秋耕のまたも大地を新しく 大澤 保子

名久井清流 特選

佛壇の昼の暗さや柿匂ふ 北田 祥子

大澤 保子 特選

蜻蛉の首のうしろのがらんだう 五日市 明子

さいとう白沙 特選

貫乳の音に間合や涼新た 安部 克詠

互選高ポイント

朝顔やそうか新聞休刊日 四戸 美佐子
二人して以下省略のころる汁 澤藤 はなの

やかなけり会ふことの幸秋日和 安部 克詠

浮き上がる畑のかたち蕎麦の花 五日市 明子

芋の露風の遊びに耐へてをり 大石 文雄

秋耕のまたも大地を新しく 大澤 保子

秋雨に濡れては変る石の相 小原 きよ

佛壇の昼の暗さや柿匂ふ 北田 祥子

コロナ禍とかかはりのなく鮭のほる 小菅 白藤

涙せりレモンのような女優の死 さいとう 白沙

待たされて診察一分秋うらら 澤藤 はなの

朝顔やそうか新聞休刊日 四戸 美佐子

俳句手帖秋の欠片をかき集む 田代 節子

秋彼岸記憶うすれの夫連れて 中野 風子

着流しの影長ながと稲ぼつち 名久井 清流

世にふりて紅玉が好き賢治の忌 三浦 百合子

豪快に天を突き上げ百日紅 吉見 弘子

令和二年度

通信句会作品抄

令和二年十一月 選者六名、参加者三十一名

安部 克詠 選

特選 力抜く術知らぬまま捨案山子

下田 榮一

秀逸 傘ささぬ二人十一月の雨

田代 節子

秀逸 眼球にこつんと目薬おちて冬

鎌倉 道彦

小笠原祐子 選

特選 傘ささぬ二人十一月の雨

田代 節子

秀逸 月渡る珈琲豆の斜面かな

及川真梨子

秀逸 明日会えるとは限らない冬銀河

四戸美佐子

小菅 白藤 選

特選 力抜く術知らぬまま捨案山子

下田 榮一

秀逸 眼球にこつんと目薬おちて冬

鎌倉 道彦

秀逸 箒目にあらたな音符柿落葉

渡辺 未知

名久井清流 選

特選 水平線の向こう木枯の吹き溜まり

佐藤 レイ

秀逸 この次は人に生まるる寒鴉

五日市明子

秀逸 曼珠沙華もう誰も来ぬ墓がある

新山のぼる

さいとう白沙 選

特選 追ひかけてくるものあり十二月

安部 克詠

秀逸 明日会えるとは限らない冬銀河

四戸美佐子

秀逸 箒目にあらたな音符柿落葉

渡辺 未知

及川真梨子 選

特選 身の内の鏗落すかに新酒酌む

牧原美喜子

秀逸 力抜く術知らぬまま捨案山子

下田 榮一

秀逸 恋とはと問へば利己主義桐一葉

安部 克詠

※各選者の選評と入選十句については、紙面の都合により掲載を省略します。

通信句会 互選高点句（選者選も1点で集計）

〈9点〉力抜く術知らぬまま捨案山子

明日会えるとは限らない冬銀河

眼球にこつんと目葉おちて冬

〈8点〉芒左手を振るやうに呼ぶやうに

身の内の鏽落すかに新酒酌む

〈7点〉落葉降る降るほど空の遠くなり

かいつぶり正午の時報聞きに浮く

曼珠沙華もう誰も来ぬ墓がある

箒目にあらたな音符柿落葉

〈6点〉注釈の多き翻訳薦紅葉

大海の色を見て来し秋刀魚の眼

十六夜の月を壊して野風呂かな

追ひかけてくるものあり十二月

〈5点〉つんのめる無縁の墓や赤とんぼ

ちち・ははの温みどこかに丸火鉢

曲家を燻すにはひや秋深し

モカの香のツリーハウスや黄落期

憂鬱はペン先にあり冬の空

好日は日溜りにあり柿紅葉
コロナ禍の世はこりごとりと蛇穴に

下田 栄一

四戸美佐子

鎌倉 道彦

伊藤 晴子

牧原美喜子

小野寺束子

小菅 白藤

新山のぼる

渡辺 未知

小笠原祐子

小野寺束子

牧原美喜子

安部 克詠

内藤 照子

佐藤 恵子

稲玉 宇平

四戸美佐子

佐藤 レイ

安部 克詠
新山のぼる

岩手現俳 今年の動き

○令和二年度総会・俳句会 ↓ 中止

○春季句会（五月開催予定） ↓ 中止

○岩手県立図書館主催「俳句入門講座」全四回 ↓ 中止

○初の通信句会実施（十一月）

○新入会員

金澤 洋子（宮古市）

悼

柳幸ヨミ様が十月ご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

岩手県現代俳句協会

大会等受賞作品

◎県芸術選奨

さいとう 白沙 句集「浄土ヶ浜」

浦祭沖へ祈りの桴さばき

◎第五十七回現代俳句全国大会 募集句

秀逸賞

兜太亡きあとの秩父の墓 小菅 白藤

◎第三十四回現代俳句東北大会（青森県）募集句

山形県現代俳句協会長賞

兜太来るかも津軽林檎の花ざかり 小菅 白藤

秋田県現代俳句協会長賞

百文のみちのくの山滴れり 名久井 清流

秀逸賞

兜太なき日本の春のぐらぐらす 五日市 明子

◎第二十八回宮沢賢治生誕祭全国俳句大会

大畑 善昭 特選

少年の顎鬚うすら夏きたる 小野寺 東子

◎岩手県俳句連盟第三十九回県下俳句大会 募集句

連盟大会賞

どの客も音買ふやうに種袋 安部 克詠

◎第三十四回岩手県俳句連盟賞

俳句連盟賞

陸奥の北浜慕情

大石 文雄

旧正の祀りを修す漁夫の家
魚荷を負ふ婦どやどや初列車
えんぶりを招く常宿人溢る
風揚げの糸と浜風児に渡し
津波禍の祈りの九年涅槃雪
海嘯碑凜と立たせてすみれ咲く
畑作の困ひ越えゆく山背風
寄り昆布干す小湊の砂利丸し
階上岳の急流を呑む夏の浜
解禁の鮑に競ふ親父船
雲丹獲りの海女や手練れの浮き沈み
盆唄の古調の哀しナニヤドヤラ
海神へ尻向け奉納相撲かな
度々の時化に繕ひ浜の小屋
鈍き音たて採卵の鮭打たれ
村瘦せて広がる枯野径細る
海猫や北風強ければ北を向く
雪しまく酒場に津軽三味の音
甲高き訛飛び交ふ暮の市
一湾に冬月上げて浜眠る

◇新会員・作品と所感◇

東日本大震災 金澤洋子

初めてや海に生ききし人の涙
茄子漬けに炊きたてご飯生きている
白蓮や一生分の涙ため
天狼や田老万里をさまよいて
あの日から空を向く癖花霞

平成二十三年三月の東日本大震災で、田老の町は壊滅的な被害を受けました。その日から被災者となった私達の生活がはじまりました。あまりにも受け入れがたい現実。生と死。その中で、金子兜太師に、「ご縁をいただきました。」「十七文字を生きる糧にしなさい。」という言葉を胸に現在に至っております。時にふれ、指を折り十七文字を数えております。現代俳句協会の会員という機会をいただきました事を、大変、光栄に思います。

二〇二一（令和三年）現代俳句東北大会（岩手）

期 日 令和三年九月二十五日（土）

場 所 エスポワールいわて（盛岡市）

講演会講師 神野紗希氏

※大会の日程・内容、事前募集句等、詳細については
後日あらためてお知らせ致します。

来年の第三十五回大会は、いよいよ岩手開催です。

いつにも増して会員の皆様のご協力とご参加を頂き

たく、よろしくお願い申し上げます。

岩手県現代俳句協会

年会費ご納入のお願いについて

当会の年会費は、例年総会の当日ご納入をお願いしているところですが、予め左記ご参考に、令和三年四月末頃をめどにご協力くださいますようお願い致します。

一、令和三年度年会費

二、〇〇〇円

二、◎振込の場合

岩手銀行本店・普通預金

No.1155476

口座名・岩手県現代俳句協会

会長 名久井清流

(会長名が変更となりました。ご注意ください。)

◎現金書留又は定額小為替送付の場合

〒〇二〇一〇一三五

岩手県盛岡市大新町七の二〇

五日市 明子方

岩手県現代俳句協会会計担当宛

編集後記

来年岩手で開催の現俳東北大会、その準備がいよいよ始まった。近年は東北のどこの県も会員の高齢化・減少に悩み、人手不足で大会の運営に苦慮しているようだ。県土の広い当県は、各地区の皆様のお力をお借りしてこの困難を乗り切りたい。

講演会講師は神野紗希氏。二十代の頃、NHK「BS俳句王国」の司会をなさっていた。番組の一ファンだった筆者には感慨深い。

初めての通信句会、出揃った九十三句を眺めてつくづく「現代俳句」の幅の広さを感じた。(明子)

令和二年十二月二十五日発行 第七十八号

発行人 名久井 清流

編集人 五日市 明子

発行所 岩手県現代俳句協会

〒〇二〇一〇一三五

岩手県盛岡市大新町七の二〇

五日市 明子方

電話〇一九(六四五)七四三六